



氏名 近藤 勲(こんどう いさを) 1941年生
 所属 教育学部・教授
 Tel 086-251-7722 (ダイヤルイン)
 Fax 086-251-7722
 E-mail ikondo1@cc.okayama-u.ac.jp
 HP <http://www.okayama-u.ac.jp/user/ed/ou-info/konken.htm>

ひとこと：教育情報学の見地から、情報活用能力の育成を目指す情報教育の実施理念・方法を究明するとともに、教師教育専用ソフトの研究開発を行っています。

1. 映像・音響サブリミナル知覚の検証実験
 映像・音響サブリミナル知覚(subliminal perception)の検証実験を6、7年にわたって続けています。検証に当たっては、情動を検出するため、当初は皮膚電位変動を、最近では精神性発汗量を発汗計によって測定しています。サブリミナル知覚の有無は、未だ確認できません。

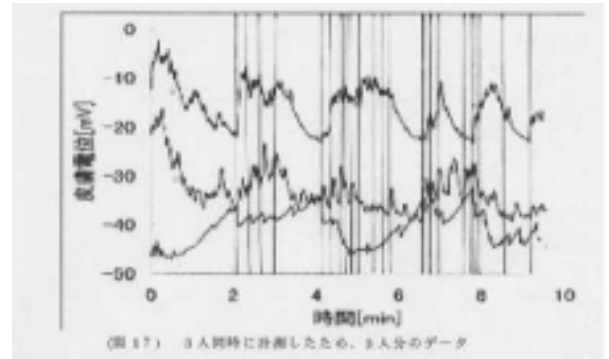


図1 皮膚電位変動の測定データ

2. バーコードを援用した情報検索システム
 e-Japan 戦略にもとづく ICT の授業・学習への導入・活用促進のために、IPA からデジタル学習素材データベースが提供されています。このデータベースを学校現場で活用しやすいように各種情報検索システムが開発されていますが、本研究室ではバーコードを援用したシステムを開発し、評価テストと併せ学校現場で試用中です。



図2 バーコードを支援した情報検索システム

3. 現職教員支援システムの実用化
 e-Learning の構築をめざし、インターネットを援用した現職教員支援システムの実用化に向けた開発研究を岡山県教育委員会との連携協力事業のもとで、科研費(基盤研究(B)、(C))の交付を受け、ハード・ソフト両面から進めています。

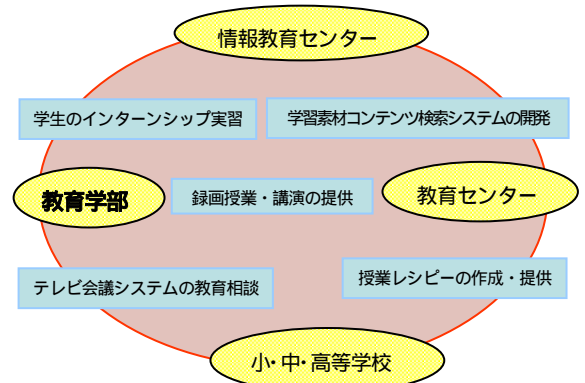


図3 e-Learning による現職教員支援システム

4. CNR授業分析法を適用した授業分析ソフト開発
 言語分析法の一つである CNR 授業分析法を適用した授業分析の専用ソフトを日本語版・英語版の2種開発し、国内と途上国の小学校の授業改善のために利用しています。国際教育協力の面でも貢献しています。

キーワード： サブリミナル、情動性発汗作用、ICT、授業分析、CNR法

キーワード用語集（近藤 勲先生）

- サブリミナル …… 生体は一定の強さの刺激がないと意識的に知覚することができない。ところが知覚に必要な最小限の刺激(刺激閾)以下によっても生体は反応することがあり、このときの知覚をサブリミナル知覚という。映像、音響、接触などのサブリミナル知覚があるが、例えば、何の変哲もない景色などの映像に恐怖や性的興奮を惹起させる映像カットを通常では知覚できない1 / 30秒以下で挿入して視聴させると、本人は自覚がないまま情動現象が見られることがある。
- 精神性発汗作用 …… 発汗作用は、エクリン腺から分泌される温熱性発汗，精神性発汗，味覚性発汗の3種類とアポクリン腺から分泌されるアポクリン腺発汗がある。精神性発汗は精神的な興奮によって生じることから、情動反応の指標として扱うことができ、専用の発汗計を用いると、微量の発汗を0.5秒以下の時間遅れで感度よく測定できる。
- I C T …… Information and Communication Technology の略称である。教育分野では、I T (Information Technology) が “ 技術 “ あるいは “ ハードウェア “ に偏った印象を与えること、また、コミュニケーション能力の育成がより重要であるという2つの理由から、I C T という略語を用いる。最近では小・中・高等学校の教員の間でもこの略語の概念が定着してきており、情報技術 I T に支援された授業実践事例の報告にも多用されるようになった。
- 授業分析 …… 授業の改善のための手掛かりを得るために行なわれるが、1950年代後半から1970年代後半にかけては、教授者と学習者間の “ 言葉のやりとり ” を数量的に計量する、いわゆる言語の相互作用分析と呼ばれる手法が主流であった。しかし、この手法は次第に批判され、1980年代以降からは、質的な分析の必要性が指摘されるようになった。そして、学習者個別の発言や学習者間の発言の文脈などが分析・評価の対象として重視されるようになった。
- C N R 法 …… Category-Number Recorder の略記である。1950年代後半から60年代にかけて、N. A. Flanders らによって開発された言語相互作用分析法を1980年前後に岡山県教育センターの指導主事らが学校現場の実情に適用しやすいように一部手直しし、当時マイクロプロセッサを組み込んで、N88BASIC を用いて自動的にデータを収集処理できる専用装置を開発した。近藤研究室では、OS 並びに情報技術の進歩に応じて、専用プログラムをバージョンアップしてきた。